



新春座談会

今井 順也さん（写真右）
星月 優佑さん（写真中）
渡辺 直由市長（写真左）

新年を迎えるに当たり、昨年活躍された2人の高校生に、夢や希望を聞きしました。

活躍

市長 最初に、昨年の2人の活躍について紹介してください。

今井さん 去年の10月に岡山県で行われた、国民体育大会秋季大会で、陸上競技の400メートルハードルに出場して、優勝することができました。今まで全国大会は、去年のインターハイの2位が最高で、1位を取ることができませんでした。高校生最後の全国大会を、優勝で締めくくることができ、最高にうれしいです。

星月さん 独立行政法人の情報処理推進機構が、国の補助を受けて行っている「未踏ソフトウェア創造事業」に「アニメーション（人□画）向けの超低損失動画圧縮の開発」というテーマで応募して、最年少で採択されました。

内容を簡単に説明すると、動画をDVDに録画するときに、今よりもっときれいな画質で、長時間録画できる技術開発の研究です。

その結果、去年の5月に「準スーパークリエイター」に選定されました。

きっかけ

市長 その道に進もうと思ったきっかけは何ですか。

今井さん 小さいころから運動が好きでした。小学生の時は、市の陸上大会などに出場していました。中学校では、「自分が努力した分、強くなれる」という思いから、陸上部に入りました。最初は100メートルの選手でしたが、長距離も得意だったので、400メートルに転向しました。中学校の大会では、全国で4位に入りました。高校へ入って、400メートルハードルを始めました。

星月さん 父が、仕事でパソコンを使っていて、家に置いてあった古いパソコンを触り始めたのが、最初です。

もともとビデオを分解したり、機械いじりをするのが好きだったから、パソコンにも興味を持ち、使い始めました。

確か小学校へ入る前だったと思います。